様式(細則5-2)

平成２８年６月６日

浜田市議会議長　西　田　清　久　様

議員名　芦　谷　英　夫　㊞

調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

記

１、期　　間　　平成２８年５月８日（日）

２、研修内容　　「こころに寄り添う認知症ケア講演会」

３、研 修 先　　益田市（益田市総合福祉センター）

４、調査経費　　浜田市⇒益田市⇒浜田市（自家用車使用）

ガソリン代　　１，１４０円

５、調査研究活動の概要

別紙のとおり

浜田市議会
受
28.6.06
付

こころに寄り添う認知症ケア講演会

平成２８年６月６日

１　日　　時　　平成２８年５月８日（日）１３時００分～１５時３０分

２　場　　所　　益田市（益田市総合福祉センター）

３　内　　容　　講演「こころに寄り添う認知症ケア講演会」

㈱きらめき介護塾　渡辺　哲弘

益田市における認知症に関する取り組みについて

益田市地域包括支援センター　社会福祉士　渡辺　秀美

４　要　　旨

① （講演）認知症の多くは脳の病気であるアルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、レビー小体病、前頭側頭型認知症など４つに分けられ、このうち脳血管性認知症は、予防でき発症を遅らせることができる、そのためには脳梗塞や生活習慣病などを予防することが重要である。

② 脳の活性化が大事となり過度のストレスを避け、楽しいと感じること、好奇心を持ち新しいことにチャレンジする、脳の老化を遅らせる、ことなどに心がける。そのためどういう生活が望ましいか、❶上げ膳据え膳ではなく必ず役割を持ってもらう、❷ストレスを作らない、❸できないことを無理にさせない、そっと援助することが大事、❹自信を持ってもらうためにできることをどんどんしてもらう。

③ 趣味の活動や知的活動を積極的に行い、友人や仲間づくりなど周囲からのかかわりが重要となり、認知症に対する人を支える３つの馴染みがある。❶馴染みの人間関係⇒昔から知っている人、知った顔や声で安心。❷馴染みの物⇒昔から使っている道具や家具、使い方がわかるってうれしい。❸馴染みの行動⇒していた仕事や家事などは体が覚え、またできることで自信回復につながる。

④ 年を取らないことを心がけ、「もう年だから」「年がいにもなく」などの言葉は禁句で、認知症になっても変わらない付き合い、日常生活や人間関係を続けるなど、周りの人とのかかわり方が重要となり、周囲は認知症の人の気持ちを理解し、認知症の予防を正しく伝えられる人材の育成も必要となっている。

⑤ （益田市の取り組み）認知症の人が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らし暮らし続けることができる社会の実現を目指す、認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）に沿って進めている。

⑥ 認知症地域支援推進員の設置により認知症に関する相談受付や適切なサービスにつなげ、認知症初期集中支援チームの設置により早期発見・早期診断・早期対応を進め、認知症カフェ・研修会の開催により介護者支援の充実、認知症ケア従事者の質の向上を進める。

５　所　　見

① 浜田市では地域包括支援センターを中心に地域ケア会議による地域包括ケアシステム充実、認知症地域支援推進員増員、認知症初期集中支援チーム充実などが急がれる。

② まちづくり総合交付金により、地域での高齢者福祉活動を進めるとされており交付金の充実、あわせて介護保険の地域支援事業費の自治組織への交付など地域での細やかな予防事業を進める仕組みが必要である。

③ ミニディサービス、各地区のサロン活動、すこやか員、保健委員、食生活改善推進委員などのネットワークづくり、認知症予防、介護予防を進める体制づくりが急がれる。